

浜通遺跡掘立柱建物跡の平面形式について

高 島 成 侑*

On the planes of the Ruin-Houses in HAMADOORI-Site

Seiyuu TAKASHIMA

Abstract

HAMADOORI-Site is seated on Higashidori-mura, Shimokita-gun, Aomori-prefecture. The research of excavation was proceeding by the educational comission of Aomori-prefecture.

This site was a village of a group of SAMURAI lived in HAMADOORI and they were prospered from the 16th century to the 17th century.

In this report, we talk about the scale, the plane, and the structure of the houses which they builed and lived here. The houses was dug some holes and planted the pillar directly in the ground. The type of the house-plane was MAEZASHIKI—MIMADORI-the three room house.

1. はじめに

昭和 57 年 4 月から 10 月まで、青森県埋蔵文化財調査センターによって発掘調査が行なわれた浜通遺跡は青森県下北郡東通村小田野沢字浜通にある。小田野沢の集落から南へ 1.4 km、老部の集落から北方 5.1 km の人里離れたところで、発掘調査区域の東側には 200 m もしないで太平洋の波が打寄せており、折戸川の南岸、標高 5~7 m の湿地帯に囲まれた台地に形成された小集落の遺跡である。

この辺りは江戸時代には田名部通りと一括されて盛岡南部藩の領地であり、それ以前は八戸市の根城南部氏の領していた土地で、大忌幣郷と称されていたふしがある¹⁾。

このような場所に、塀を有する大規模な建物跡 5 棟、中・小の規模をもつ建物跡 6 棟と、製鉄工房跡 (1 基)、竪穴 (1 棟)、集団墓地 (火葬墓 8 基) などが検出されている。また出土した遺物は、多量の陶磁器、古銭、小柄、船釘、建

物釘、鉄滓、煙管等の多種にわたっている。

ここで検出された掘立柱建物跡は、社寺建築跡や城郭建築跡といったものではなくて、すべて住宅跡とみられるものである。そしてそれらは、小柄や多数の陶磁器類の出土からしても、武士階級のものとも認められるものである。さらにここでは、南西の丘の上に集団墓地が形成されており、小鍛冶跡も検出されている。井戸跡はないものの、すぐ北側を流れる折戸川が水場に当てられていたと考えられることなどから、短い一時期であっても、小さな集落が営まれていたものとみることができよう。

この遺跡は、出土した陶磁器類の検討から、16 世紀の最末期から 17 世紀のごく初頭のものとして位置づけられている。しかしこの時期における建築史の資料は意外と少なく、ことに住宅史・民家史の上では遺構の数も極めて少ない²⁾。この遺跡の掘立柱建物跡について検討されたさまざまな事柄は、そのままこの時期の住宅史・民家史にとって貴重な資料となりうるものである。

発掘調査にあたって、建築担当の調査員とし

昭和 59 年 11 月 2 日受理

* 建築工学科助教授